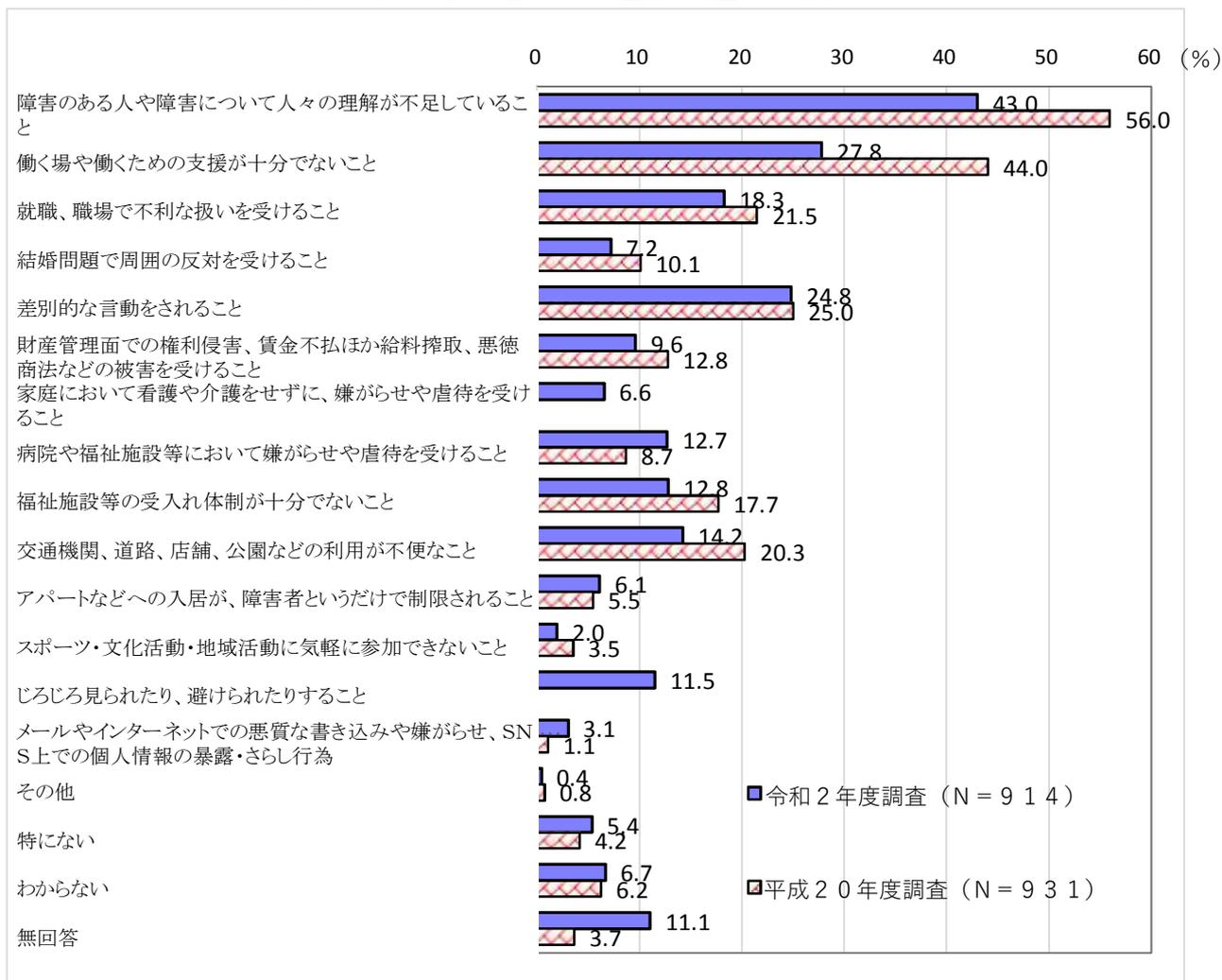


(5) 障害のある人に関する人権上の問題点と見聞

(ア) 障害のある人に関する人権上の問題点

問9 あなたは、障害のある人に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。
(✓は3つまで)

図9-1-1 障害のある人に関する人権上の問題点（経年比較）

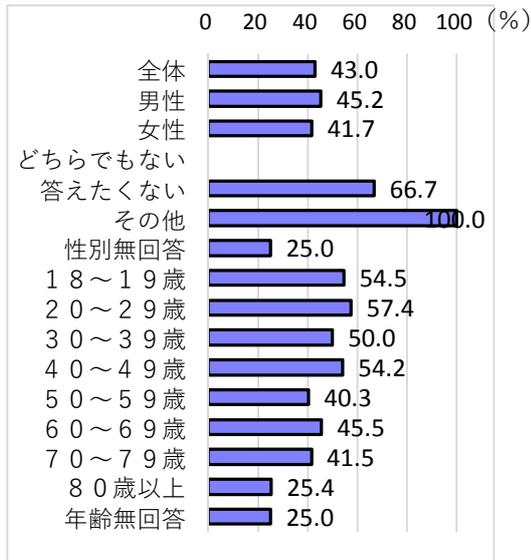


障害のある人に関する人権問題を尋ねたところ、「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」と答えた人が43.0%で最も高く、次いで、「働く場や働くための支援が十分でないこと」(27.8%)、「差別的な言動をされること」(24.8%)、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(18.3%)、「交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと」(14.2%)と続いている。

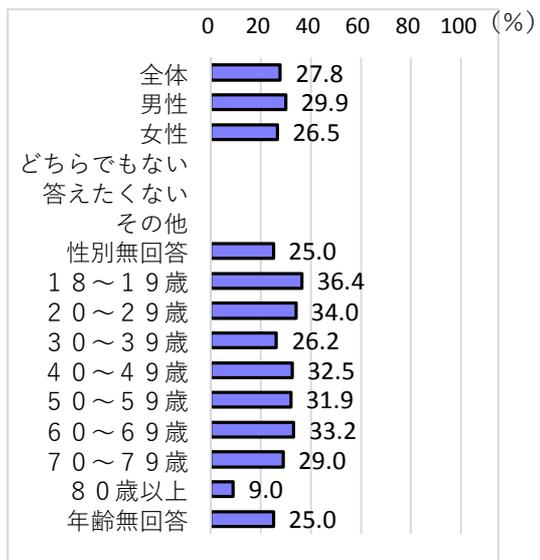
平成20年度調査結果と比較すると、「病院や福祉施設等において嫌がらせや虐待を受けること」は4.0ポイント高く、次いで、「メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為」が2.0ポイントと高くなっている。

図9-1-2 障害のある人に関する人権上の問題点（性・年齢別）

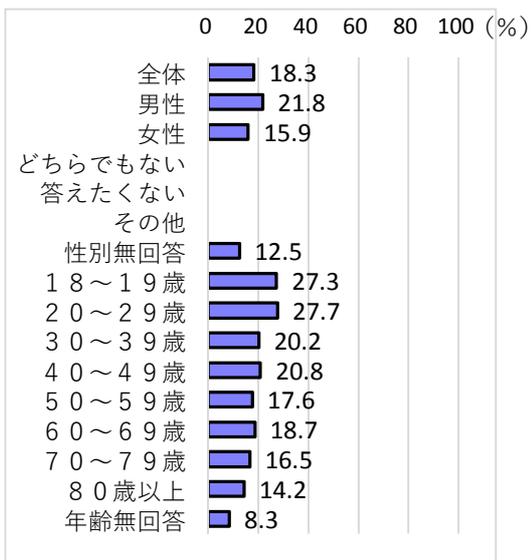
障害のある人や障害について人々の理解が不足していること



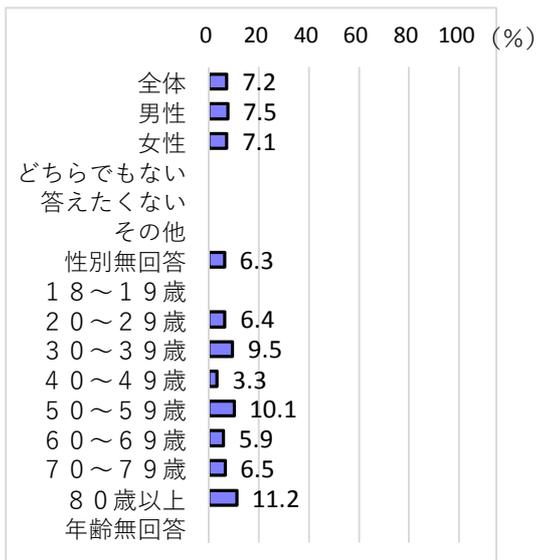
働く場や働くための支援が十分でないこと



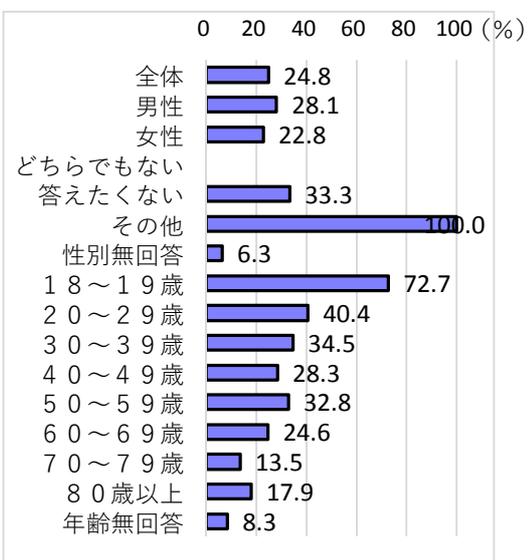
就職、職場で不利な扱いを受けること



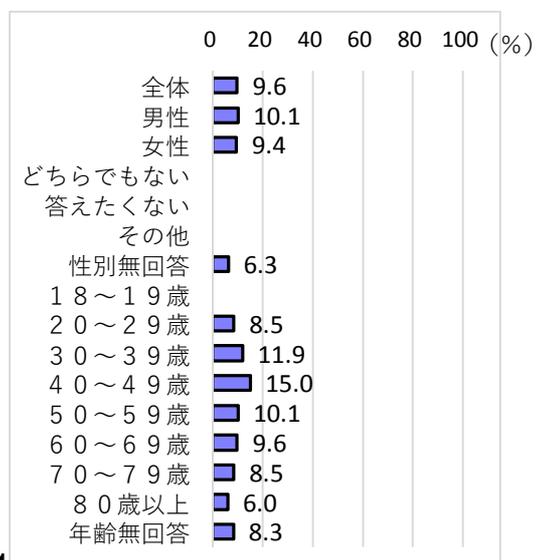
結婚問題で周囲の反対を受けること



差別的な言動をされること



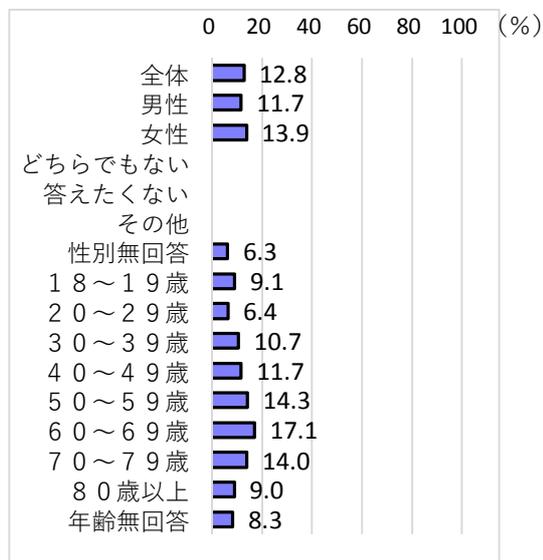
財産管理面での権利侵害、賃金不払ほか給料搾取、悪徳商法などの被害を受けること



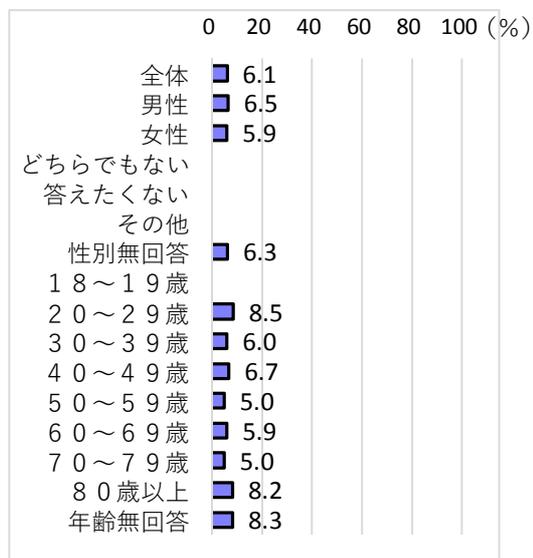
家庭において看護や介護をせずに、嫌がらせや虐待を受けること



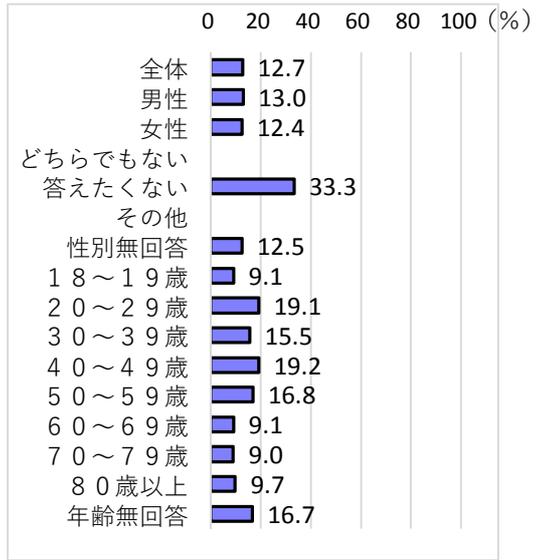
福祉施設等の受入れ体制が十分でないこと



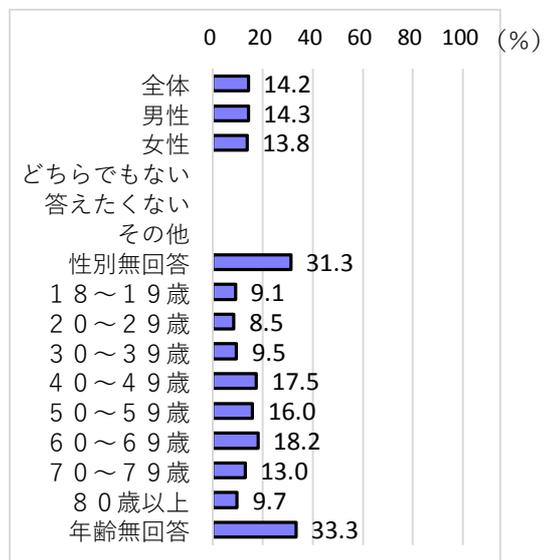
アパートなどへの入居が、障害者というだけで制限されること



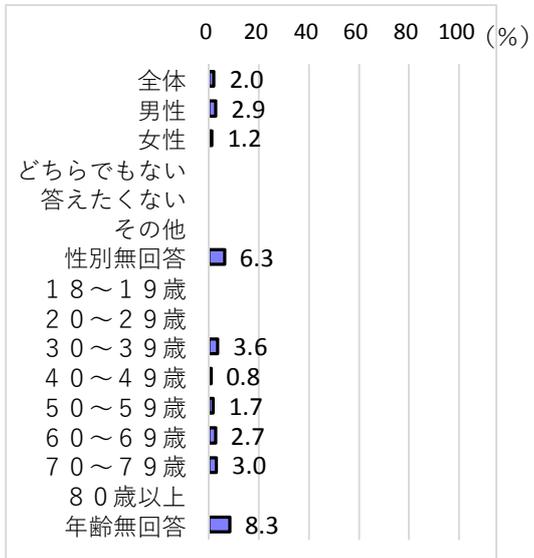
病院や福祉施設等において嫌がらせや虐待を受けること



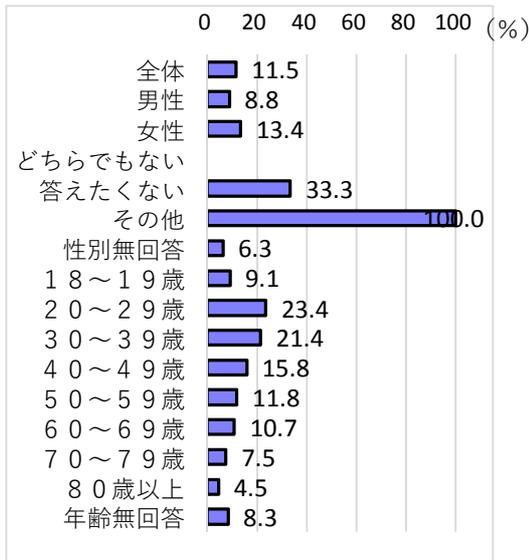
交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと



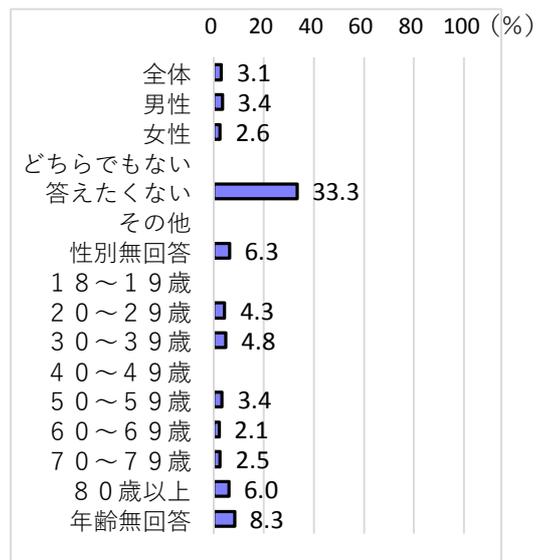
スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと



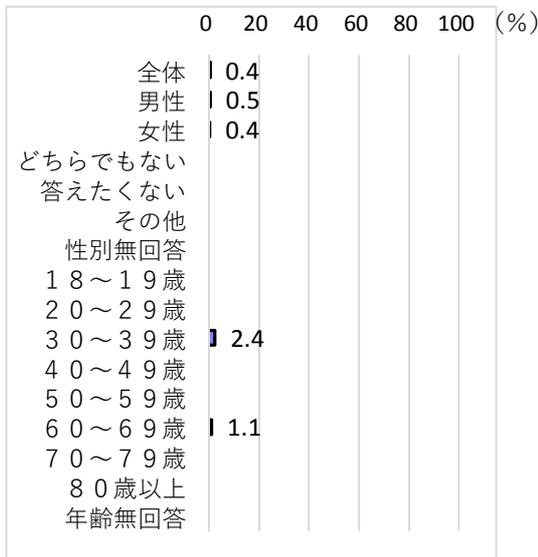
じろじろ見られたり、避けられたりすること



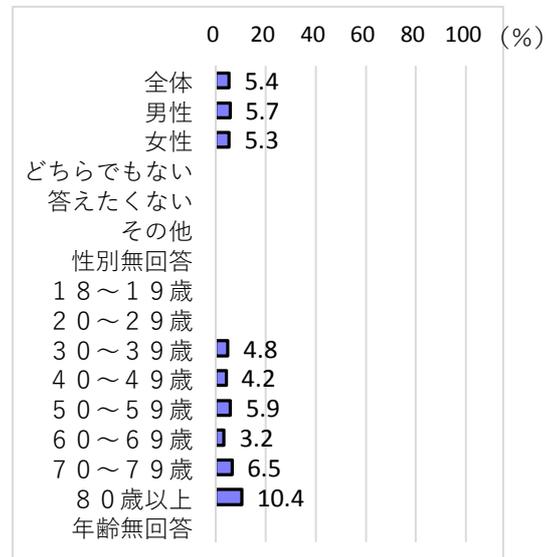
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



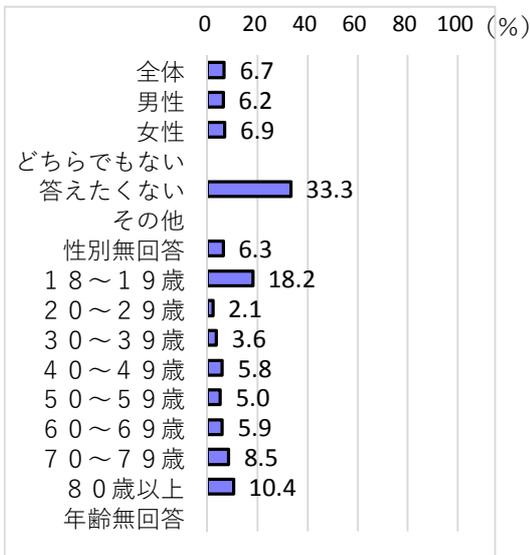
その他



特にない



わからない

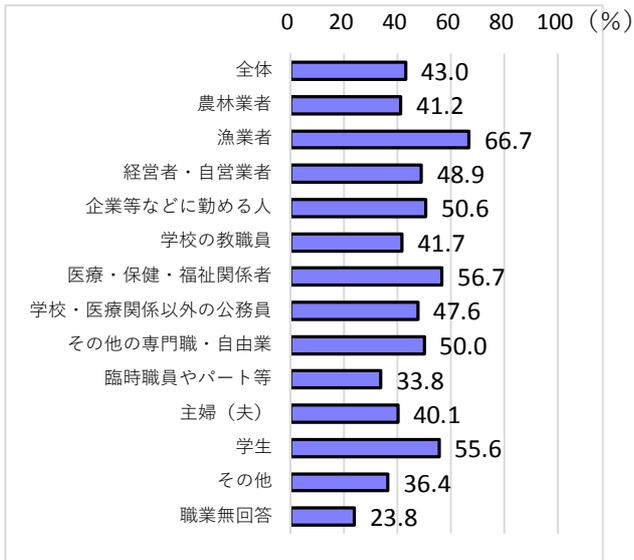


全体	(N=914)
男性	(N=385)
女性	(N=509)
どちらでもない	(N=0)
答えたくない	(N=3)
その他	(N=1)
性別無回答	(N=16)
18～19歳	(N=11)
20～29歳	(N=47)
30～39歳	(N=84)
40～49歳	(N=120)
50～59歳	(N=119)
60～69歳	(N=187)
70～79歳	(N=200)
80歳以上	(N=134)
年齢無回答	(N=12)

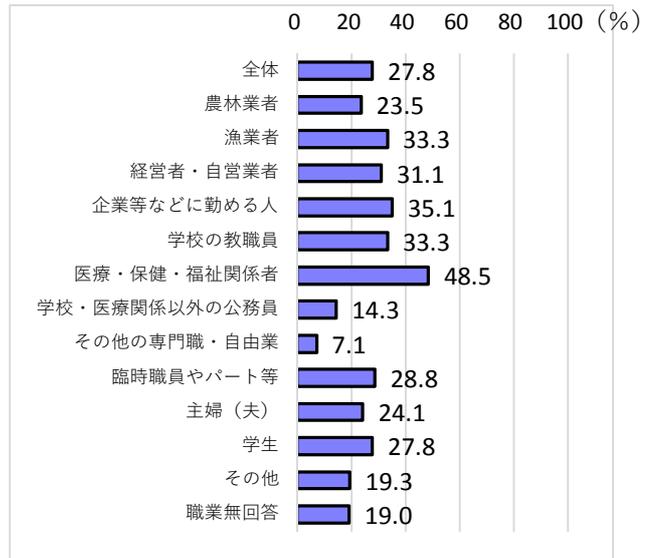
障害のある人に関する人権上の問題点について性別にみると、男女ともに「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」の回答割合が最も高くなっている。

図9-1-3 障害のある人に関する人権上の問題点（職業別）

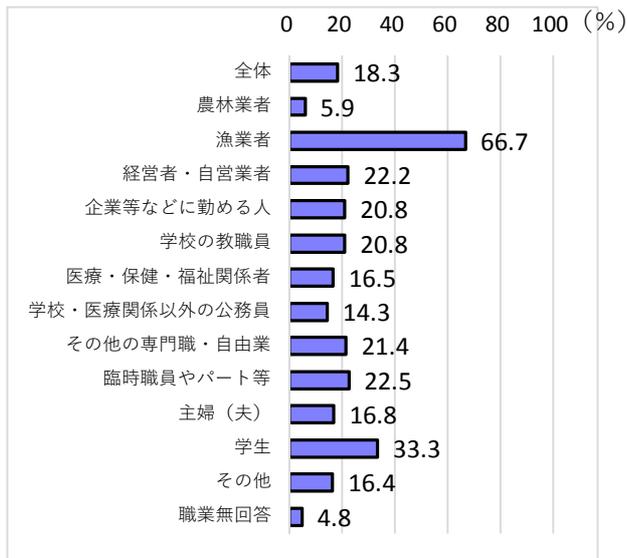
障害のある人や障害について人々の理解が不足していること



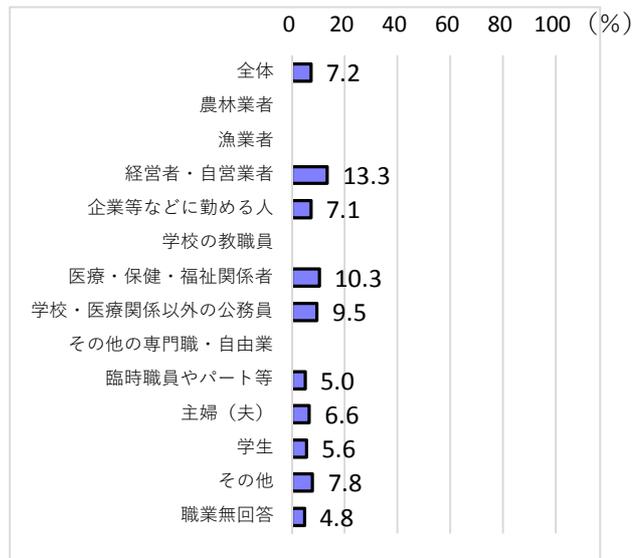
働く場や働くための支援が十分でないこと



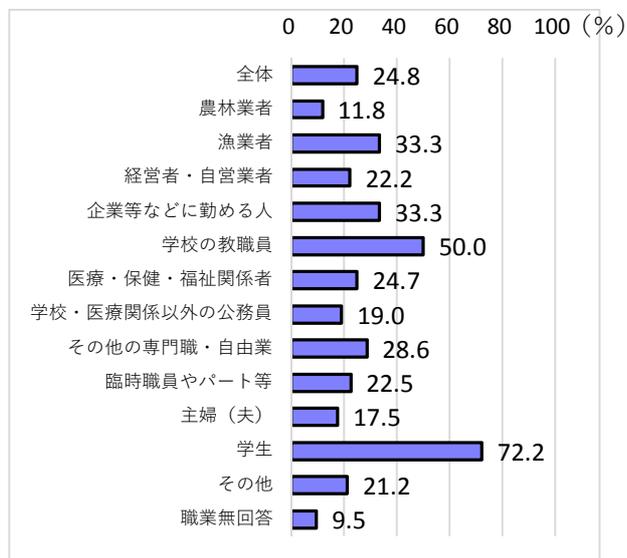
就職、職場で不利な扱いを受けること



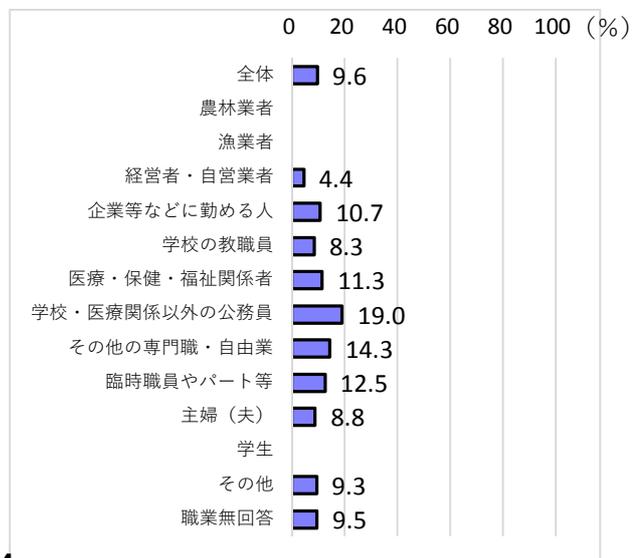
結婚問題で周囲の反対を受けること



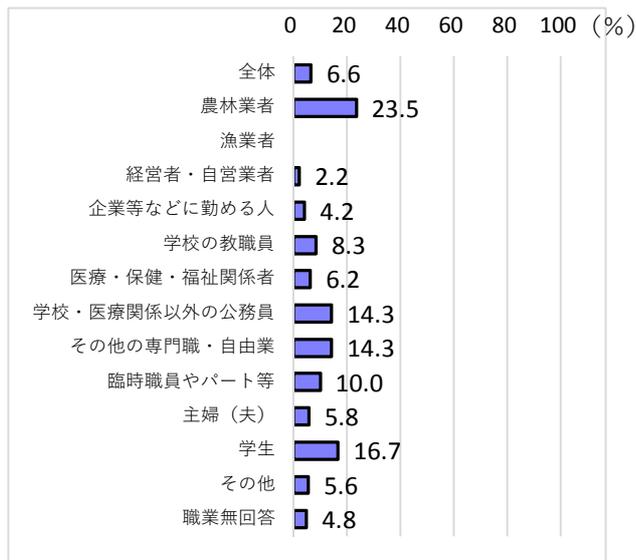
差別的な言動をされること



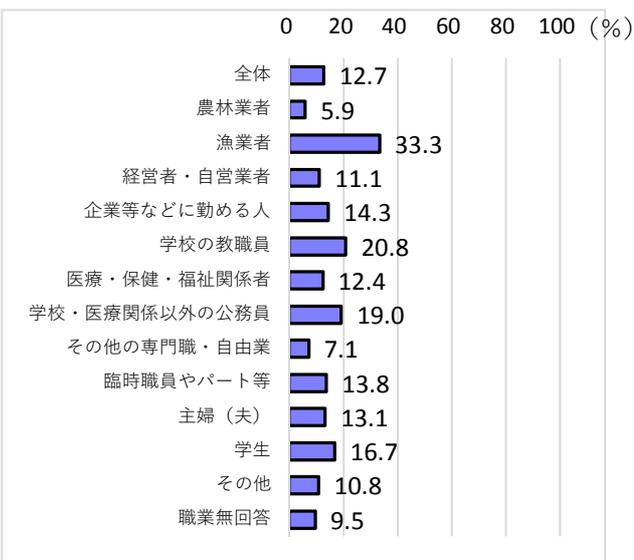
財産管理面での権利侵害、賃金不払ほか給料搾取、悪徳商法などの被害を受けること



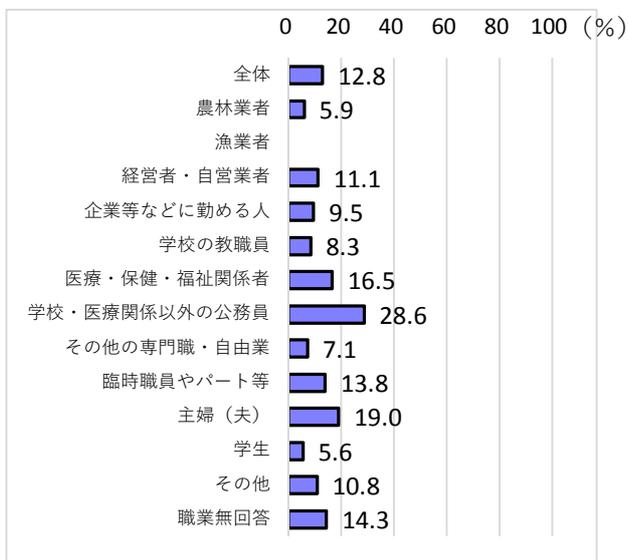
家庭において看護や介護をせずに、嫌がらせや虐待を受けること



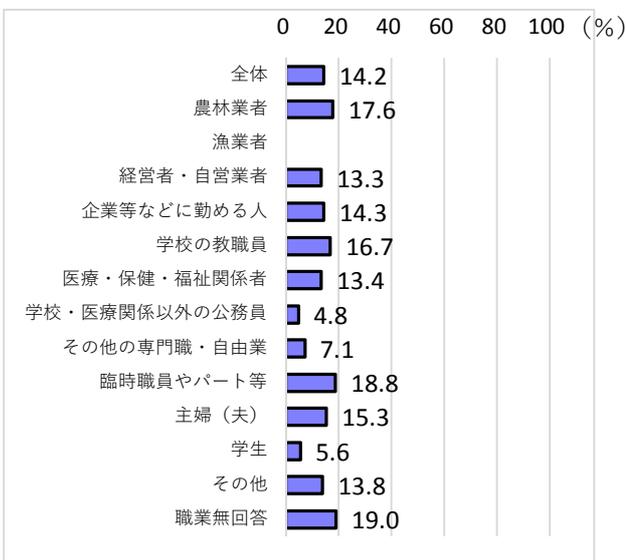
病院や福祉施設等において嫌がらせや虐待を受けること



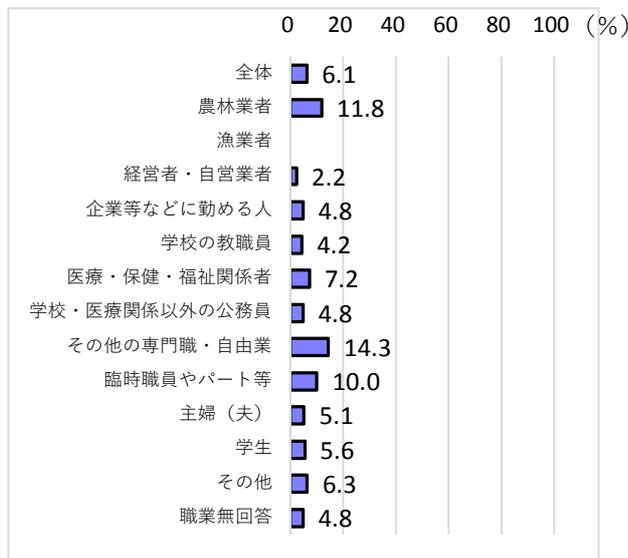
福祉施設等の受入れ体制が十分でないこと



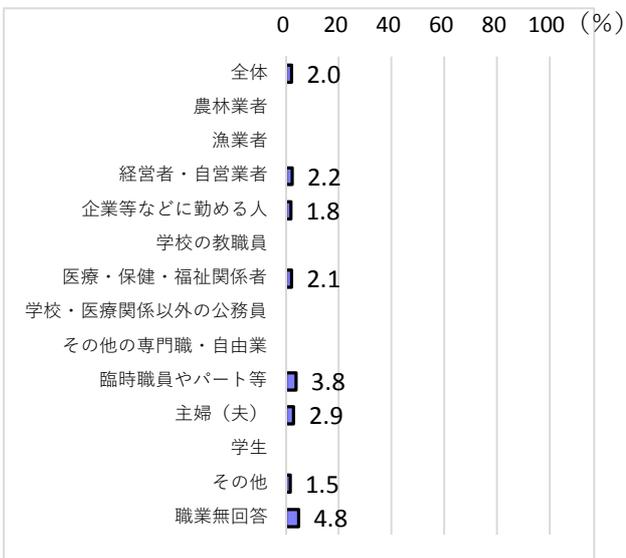
交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと



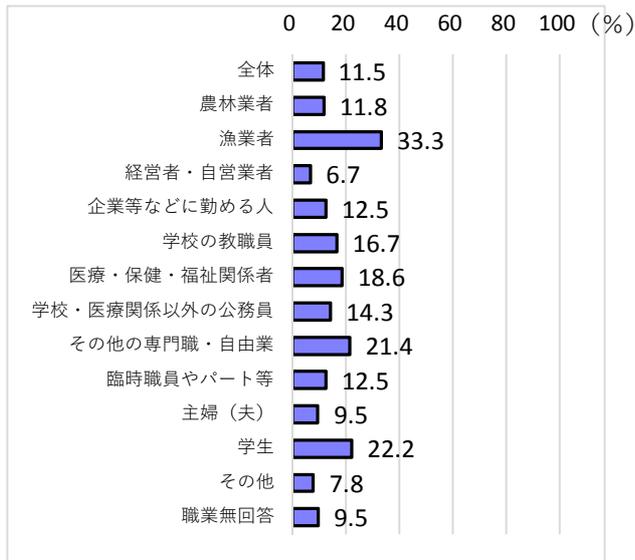
アパートなどへの入居が、障害者というだけで制限されること



スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと



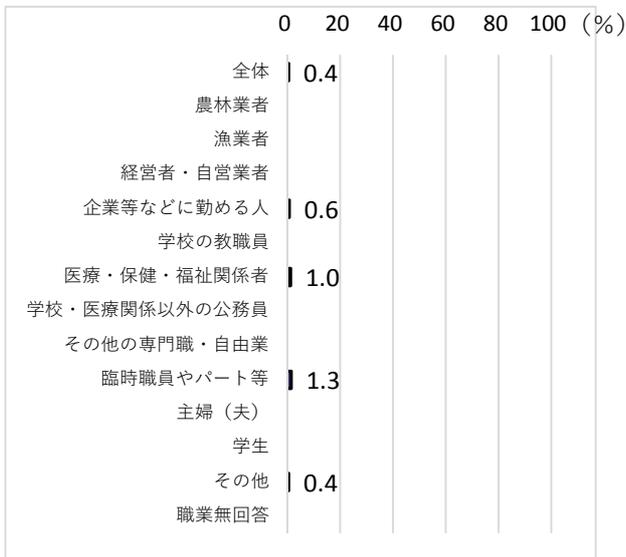
じろじろ見られたり、避けられたりすること



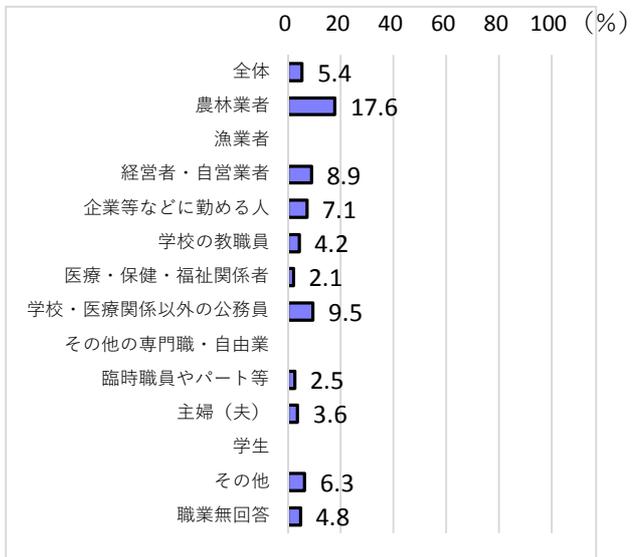
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



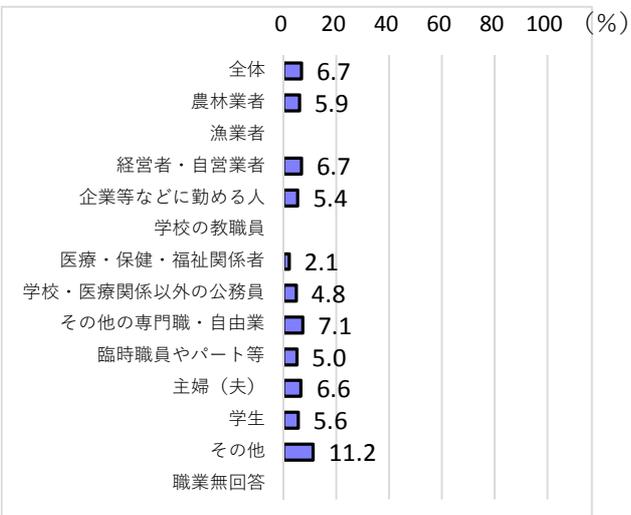
その他



特にない



わからない



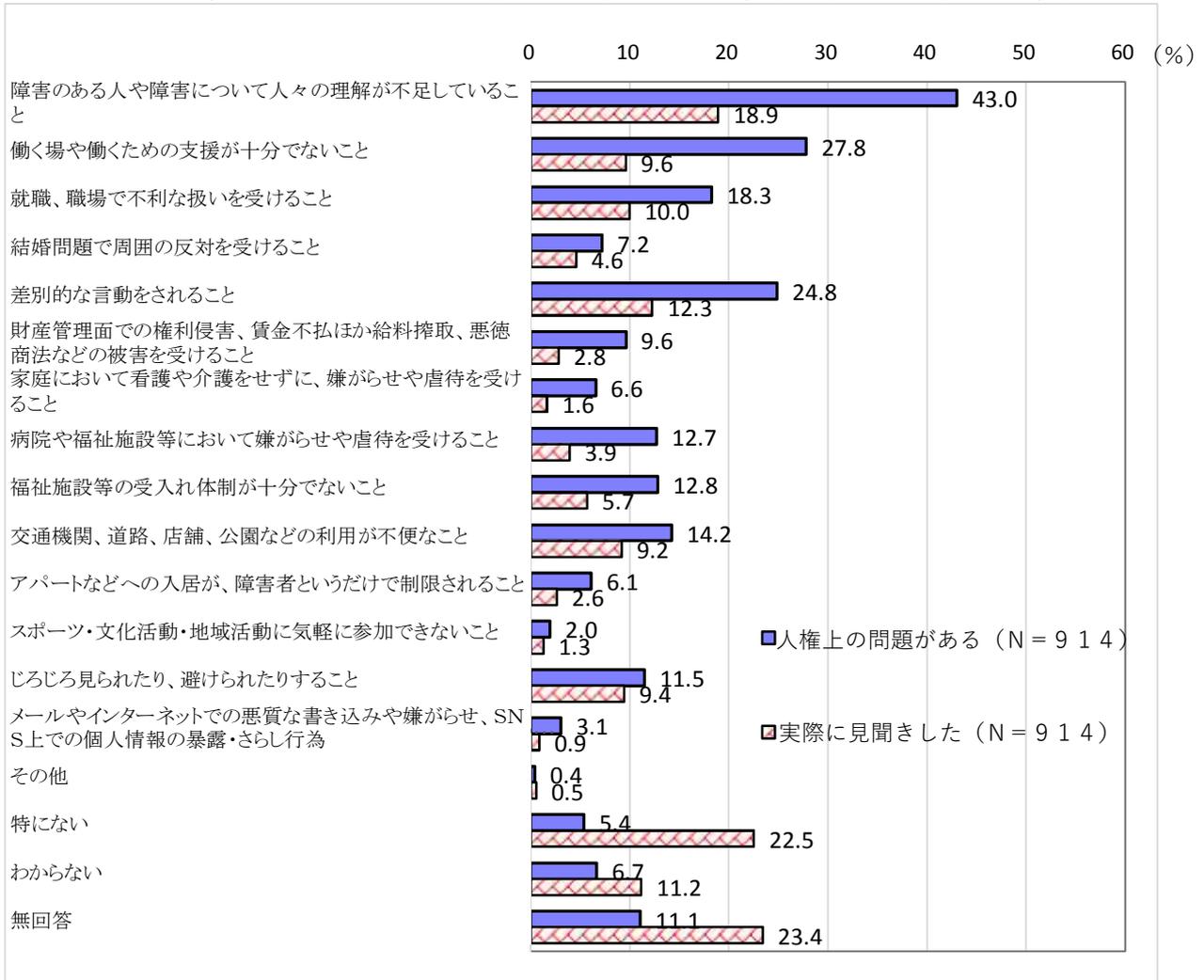
全体	(N=914)
農林業者	(N=17)
漁業者	(N=3)
経営者・自営業者	(N=45)
企業等に勤める人	(N=168)
学校の教職員	(N=24)
医療等の関係者	(N=97)
その他の公務員	(N=21)
他の専門職・自由業	(N=14)
臨時職員・パート等	(N=80)
主婦(夫)	(N=137)
学生	(N=18)
その他	(N=269)
職業無回答	(N=21)

障害のある人に関する人権上の問題点について職業別にみると、大半の職業において「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」の回答割合が最も高くなっている。また、学校の教職員、学生では、「差別的な言動をされること」の回答割合が最も高くなっている。

(イ) 障害のある人に関する人権問題を見聞きした経験

問9 また、あなたが、過去5年間に、実際に見聞きしたのがありますか。(✓は3つまで)

図9-2-1 障害のある人に関する人権問題を見聞きした経験 (問題点・見聞比較)

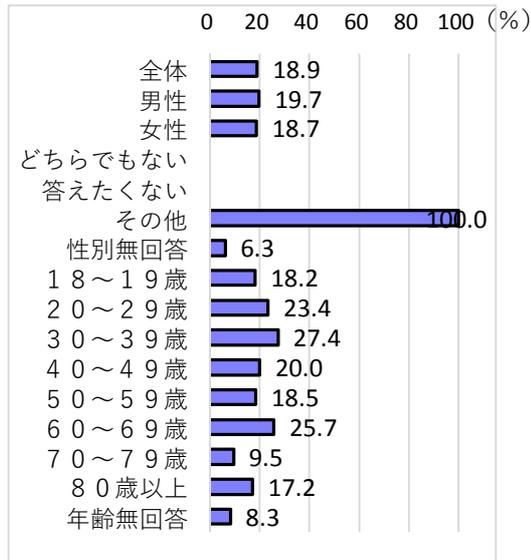


障害のある人に関する人権問題について「見聞きした経験」をみると、「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」と答えた人が18.9%、次いで、「差別的な言動をされること」(12.3%)、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(10.0%)、「働く場や働くための支援が十分でないこと」(9.6%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(9.4%)、「交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと」(9.2%)、「福祉施設等の受入れ体制が十分でないこと」(5.7%)と続いている。

また、障害のある人に関する人権問題について「見聞きした経験」と「問題点」を比較すると、具体的な事象を表す選択肢の回答割合については、すべて「見聞きした経験」が、「問題点」の回答割合を下回っている。「スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと」については、「見聞きした経験」と「問題点」の回答割合が、0.7ポイント差と近似値になっている。

図9-2-2 障害のある人に関する人権問題を見聞きした経験（性・年齢別）

障害のある人や障害について人々の理解が不足していること



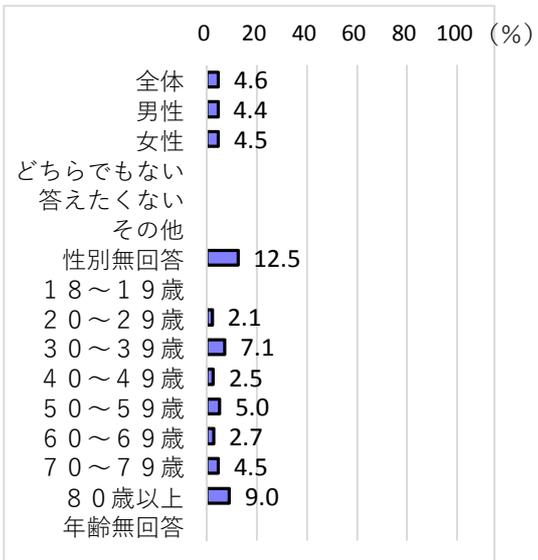
働く場や働くための支援が十分でないこと



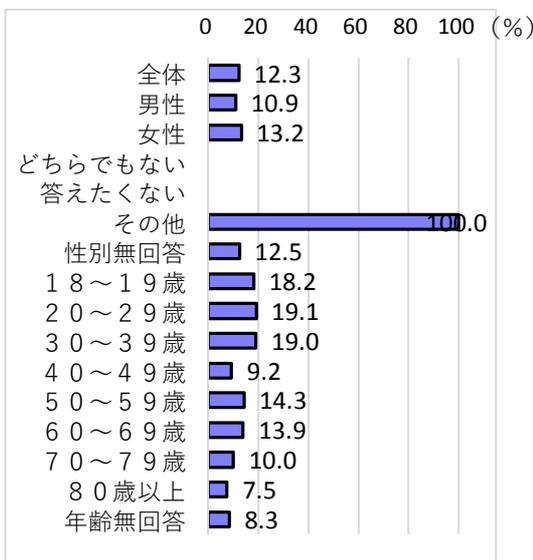
就職、職場で不利な扱いを受けること



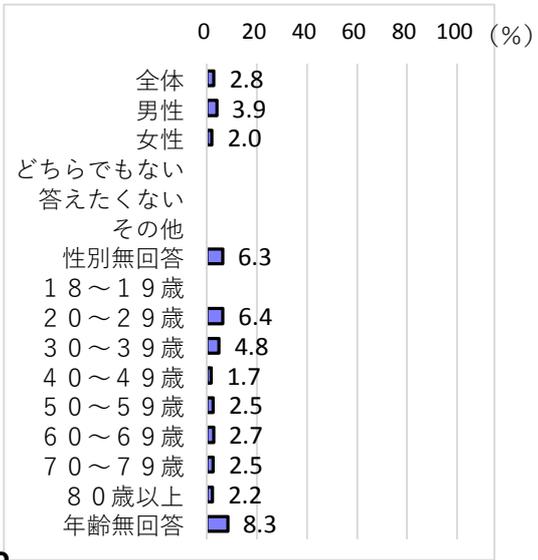
結婚問題で周囲の反対を受けること



差別的な言動をされること



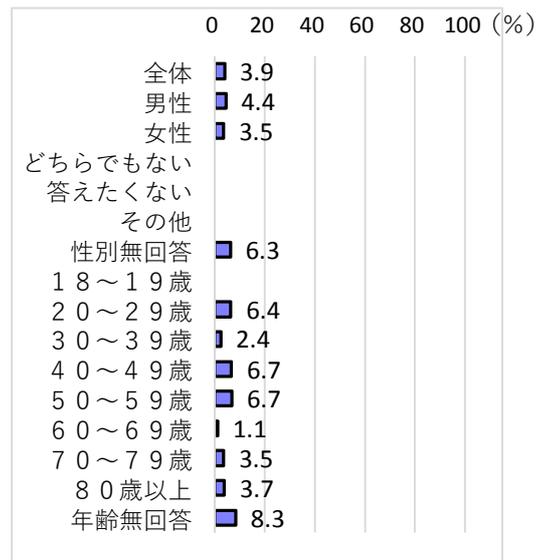
財産管理面での権利侵害、賃金不払ほか給料搾取、悪徳商法などの被害を受けること



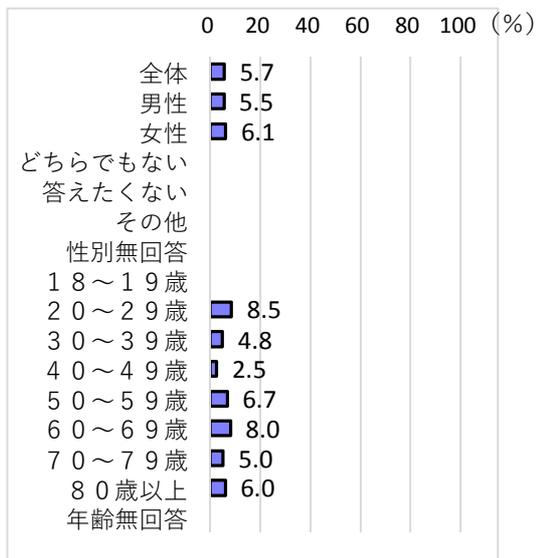
家庭において看護や介護をせずに、嫌がらせや虐待を受けること



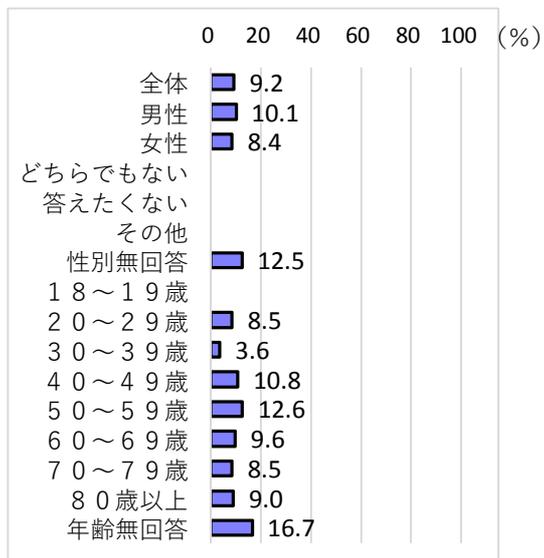
病院や福祉施設等において嫌がらせや虐待を受けること



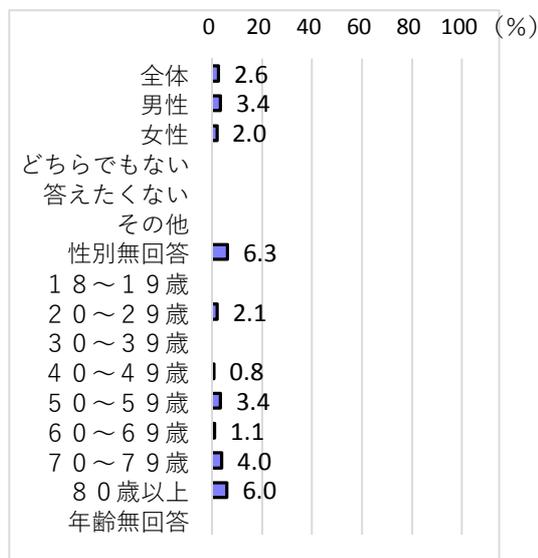
福祉施設等の受入れ体制が十分でないこと



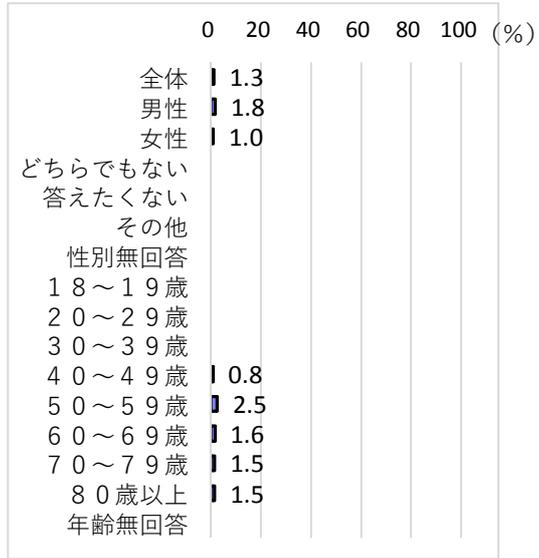
交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと



アパートなどへの入居が、障害者というだけで制限されること



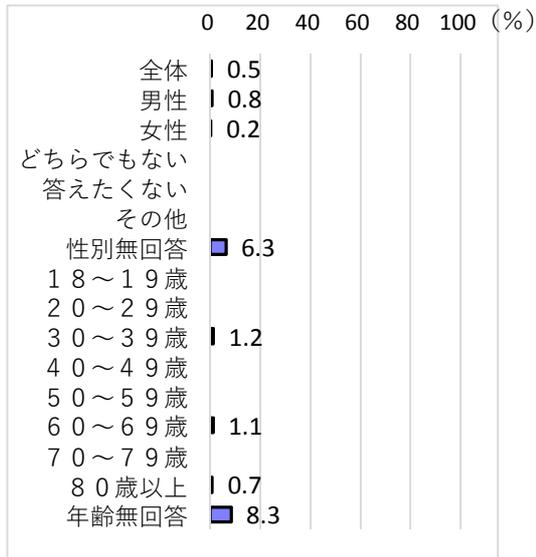
スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと



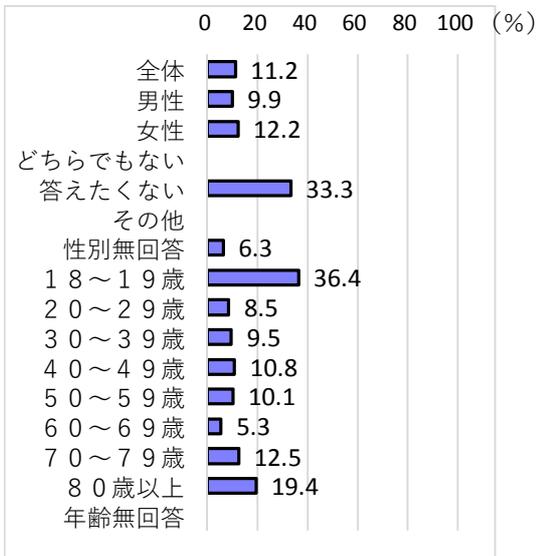
じろじろ見られたり、避けられたりすること



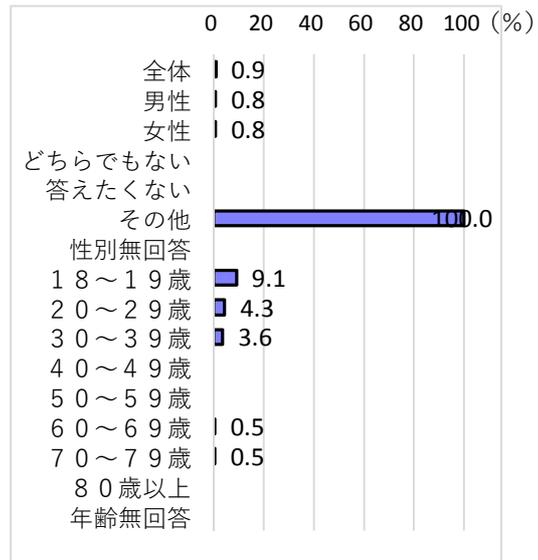
その他



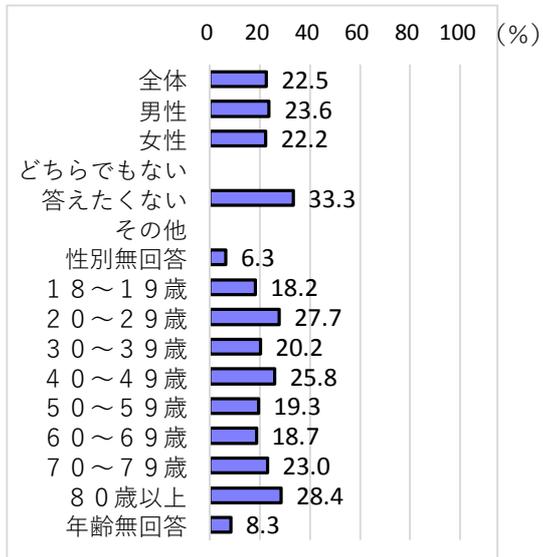
わからない



メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



特にない

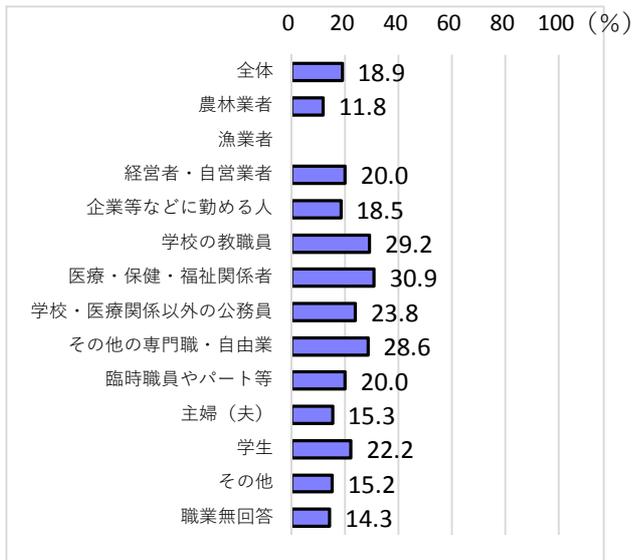


全体	(N=914)
男性	(N=385)
女性	(N=509)
どちらでもない	(N=0)
答えたくない	(N=3)
その他	(N=1)
性別無回答	(N=16)
18～19歳	(N=11)
20～29歳	(N=47)
30～39歳	(N=84)
40～49歳	(N=120)
50～59歳	(N=119)
60～69歳	(N=187)
70～79歳	(N=200)
80歳以上	(N=134)
年齢無回答	(N=12)

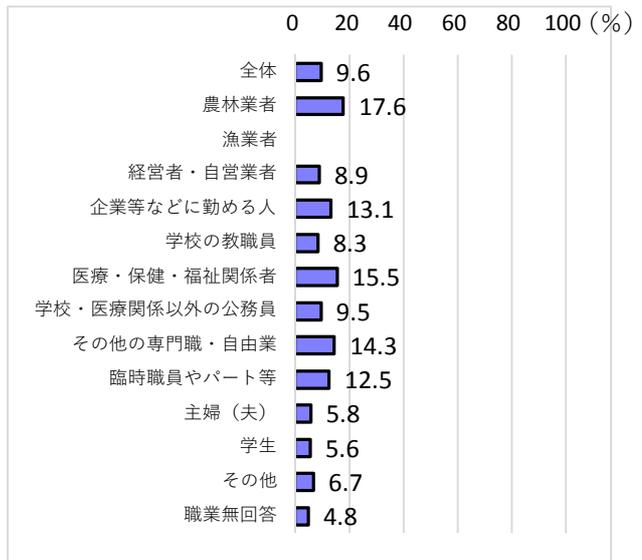
障害のある人に関する人権問題の「見聞きした経験」について性別にみると、男女ともに「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」の回答割合が最も高くなっている。

図9-2-3 障害のある人に関する人権問題を見聞きした経験（職業別）

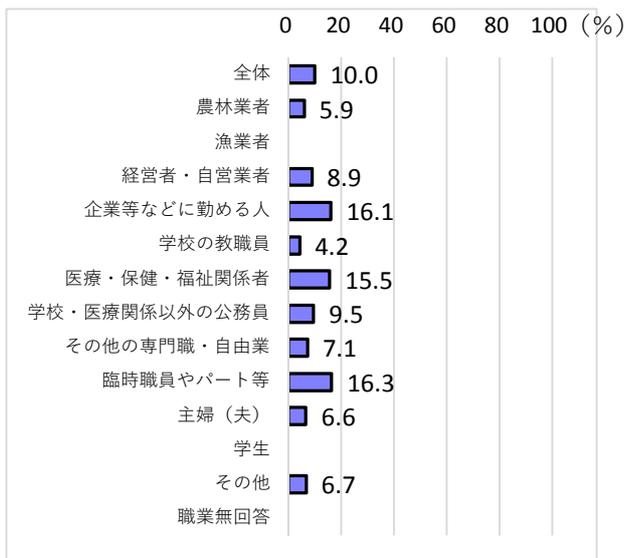
障害のある人や障害について人々の理解が不足していること



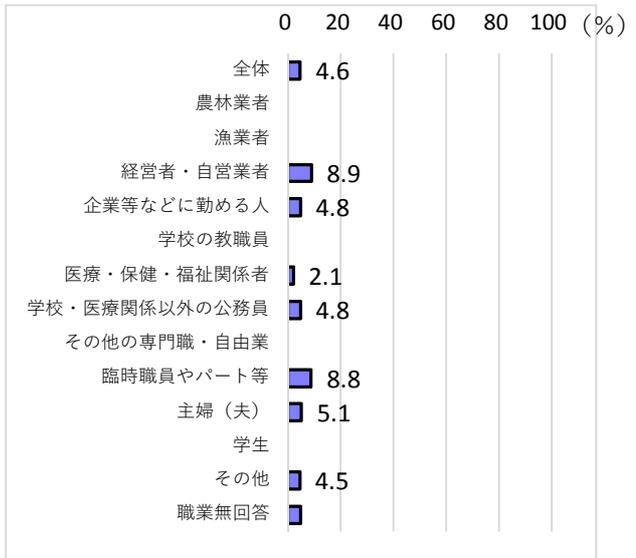
働く場や働くための支援が十分でないこと



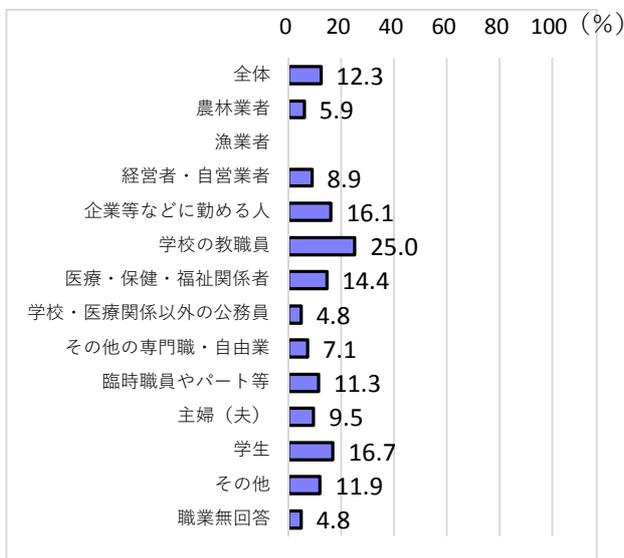
就職、職場で不利な扱いを受けること



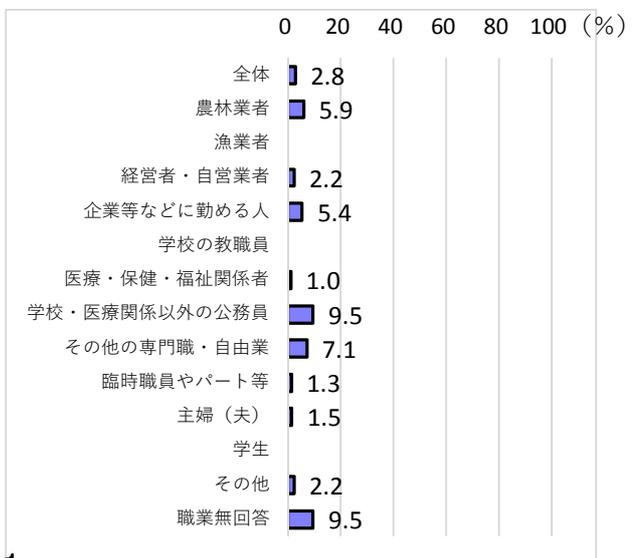
結婚問題で周囲の反対を受けること



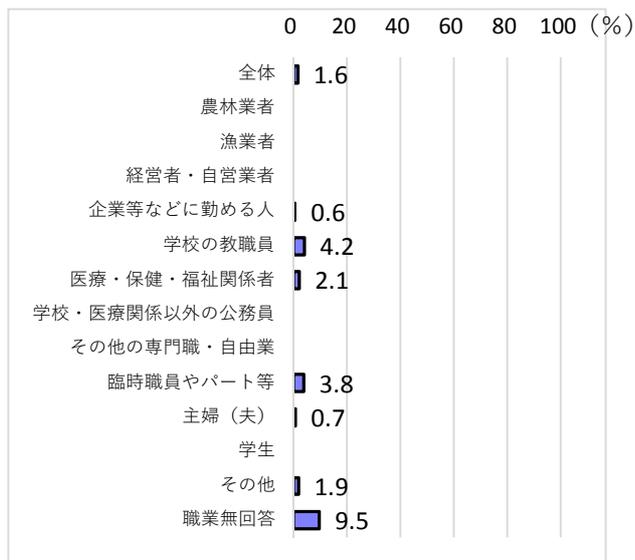
差別的な言動をされること



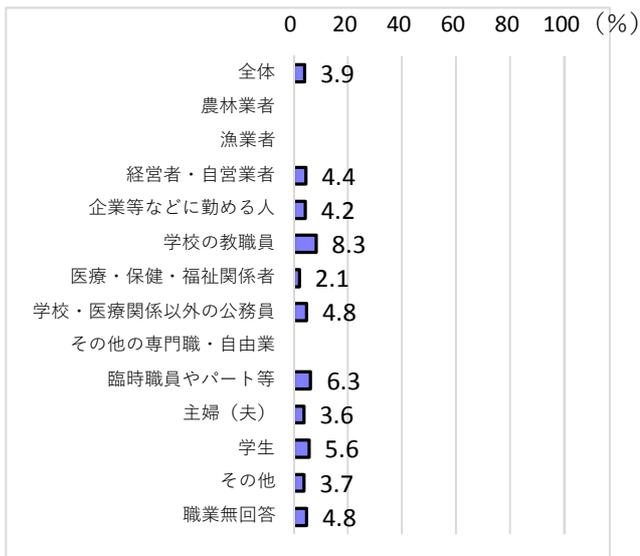
財産管理面での権利侵害、賃金不払ほか給料搾取、悪徳商法などの被害を受けること



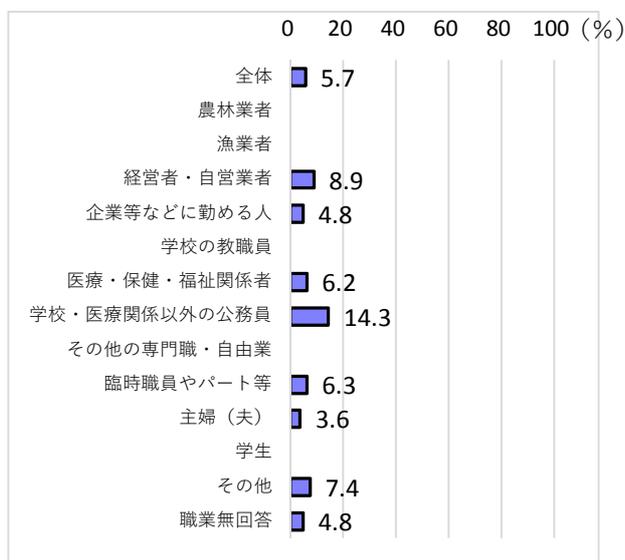
家庭において看護や介護をせずに、嫌がらせや虐待を受けること



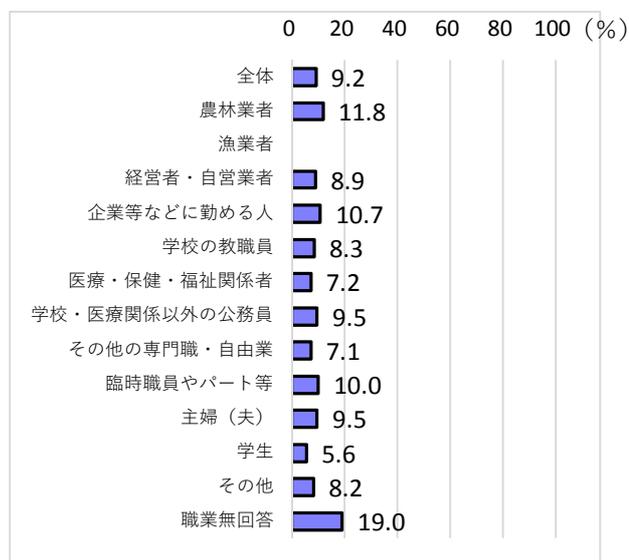
病院や福祉施設等において嫌がらせや虐待を受けること



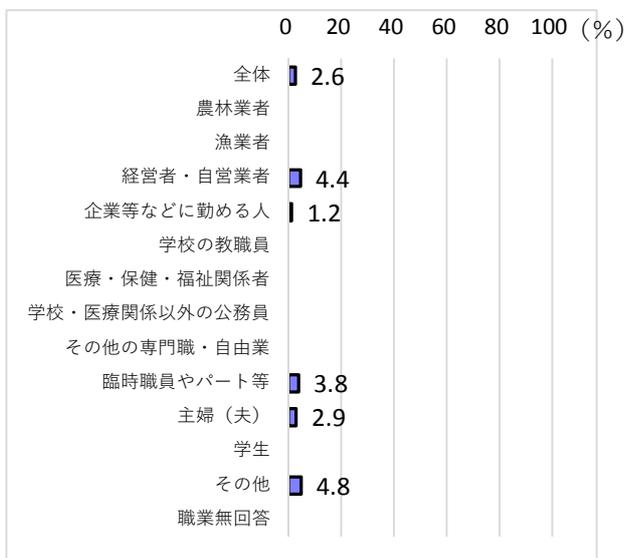
福祉施設等の受入れ体制が十分でないこと



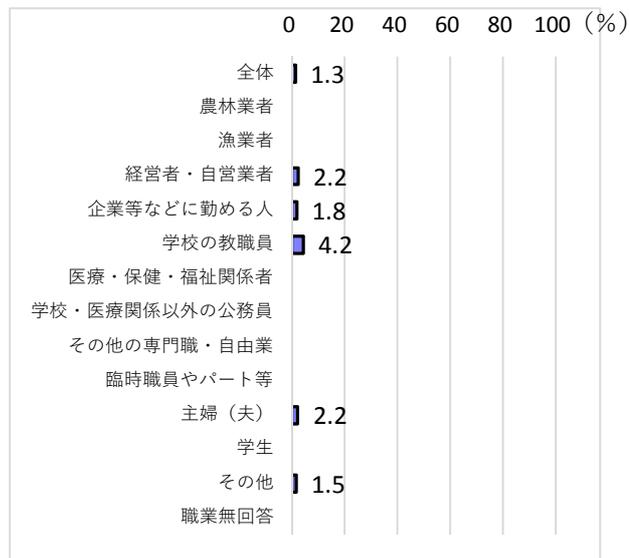
交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと



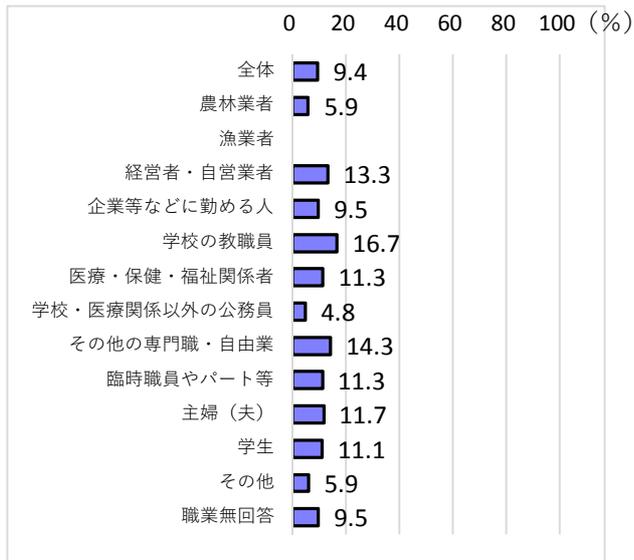
アパートなどへの入居が、障害者というだけで制限されること



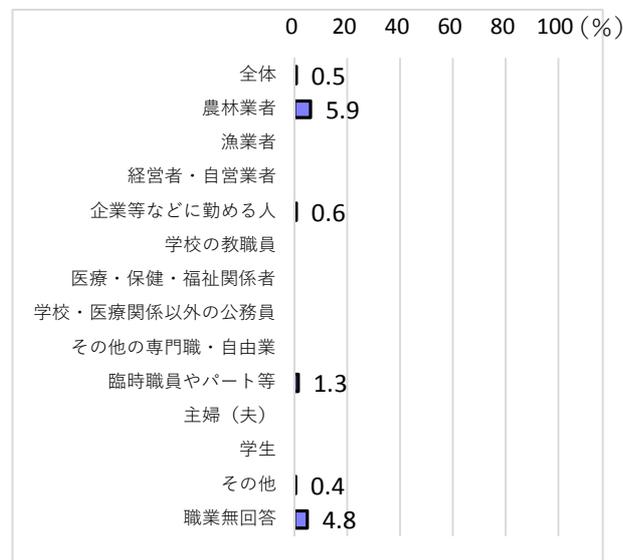
スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと



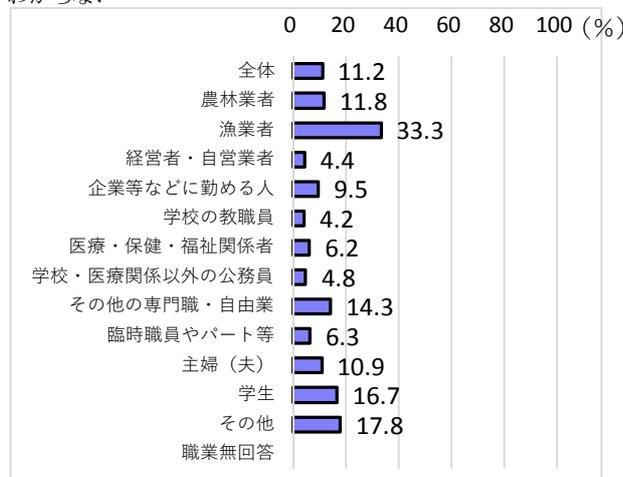
じろじろ見られたり、避けられたりすること



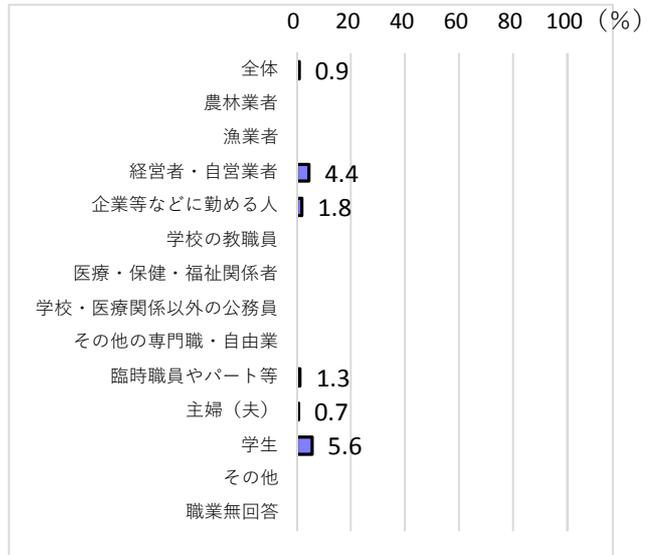
その他



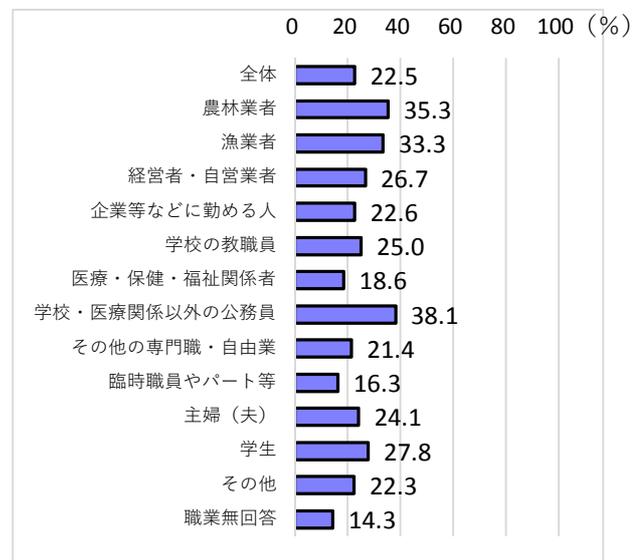
わからない



メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



特にない



全体	(N=914)
農林業者	(N=17)
漁業者	(N=3)
経営者・自営業者	(N=45)
企業等に勤める人	(N=168)
学校の教職員	(N=24)
医療等の関係者	(N=97)
その他の公務員	(N=21)
他の専門職・自由業	(N=14)
臨時職員・パート等	(N=80)
主婦(夫)	(N=137)
学生	(N=18)
その他	(N=269)
職業無回答	(N=21)

障害のある人に関する人権問題の「聞きした経験」について職業別にみると、大半の職業において「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」の回答割合が最も高くなっている。また、農林業者では「働く場や働くための支援が十分でないこと」(17.6%)の回答割合が最も高くなっている。